1.新嵐山スカイパーク自分ごと化会議(第三回)振り返り

JAPAN INITIATIVE 構想日本

第三回・新嵐山スカイパーク自分ごと化会議は以下の内容であったと理解しています。

A班(コーディネーター：伊藤さん)

○「地域の魅力を地元住民がつくる」議論
- 外の目線の重要性⇒地元住民が気付くきっかけ
- 地元住民の"危機感"が楽しむことに転換
- 行政や民間事業者がリード
- 生きがいを見つける
  (例：野菜を買ってもらってうれしい)

→地元住民と外の人の関わりの仕組みの検討。
→担い手の"意志・覚悟"の重要性。
→オンリーワンになる情報発信の工夫。(＝組合せ)

○スカイパークの"魅力組合せ"についての議論
- スキーｘキャンプ
- その他の魅力との更なる掛け合わせ

B班(コーディネーター：前田さん)

○ナビゲーターの説明を受けての感想
→スカイパーク事業の継続性
- 宿泊施設の価格／価値
- 部屋ごとの価格変更
- 接客のおもてなしの重要性

→泊まりたいスカイパークについてのアイデア出し

○情報発信について
→地元住民の情報入手経路
- 町の広報誌くらい。口コミ／SNSが少々
- 情報提供の場／意見交換の場づくり

○税金投入して施設を支える気構えの確認ができた

【ポイント】

①具体的な施策づくりに対しては、行政のみならず地元住民や民間事業者が参画することが求められている。
- 情報提供／意見交換の場づくりに対する意見が多く出た。
- 知恵だしの部分では、地元住民以外の外部住民や民間事業者の目線・アイデアを入れ込む必要性がある。

②事例より、成功のカギになるのは『担い手の意志・覚悟』であることが指摘された。
- 最終的な方向付けは行政サイドによる取りまとめ等が必要になる。
- 地元住民も自らが率先して参画していく"意志・覚悟"が必要になるとの指摘があった。

2.第四回の位置づけ・想定シナリオ(案)

JAPAN INITIATIVE 構想日本

第四回会議の位置づけとしては、以下の通りを想定しています。(赤枠部分)

2022年12月 ＜第1回：把握＞ 本会議の趣旨説明 テーマの現状把握

●会議の目的、進め方の説明
●参加者の自己紹介
【目標】
テーマに関する地域の現状や、参加者の問題意識などを共有する。
【アウトプット】
アンケート

2023年1月 ＜第2回：発散①＞ 強み/弱みの発見・議論

●参加者が新嵐山スカイパークについて感じる 課題やその改善策などを議論する。
●議論した内容を最終的にシートに記入する。
【目標】
新嵐山スカイパークについての課題や改善策を出し合う。
【アウトプット】
アンケート、改善提案シート

2023年2月 ＜第3回：発散②＞ テーマの継続議論

●第2回の議論を取りまとめたものを参考にしながら、参加者が感じる課題や改善策などを議論する。
●議論した内容を最終的にシートに記入する。
【目標】
多様な論点を出す。(集約はしない)
【アウトプット】
アンケート、改善提案シート、提案書案

2023年3月 ＜第4回：集約＞ 会議による意見とりまとめ

●これまでの議論をまとめた「提案書案」に対し、さらに意見を出し合い集約につなげていく。
●集約後まとめたものが会議の「提案書」となる。
【目標】
会議として共有できる内容を決める
【アウトプット】
アンケート、**意見提出シート**、提案書

＜最終＞ 提案書の修正・提出 **2023年3月末**

提案書の作成、芽室町様へ提出
("提出式"の開催)